

津波避難の目印に

## 福良小に「宇宙桜」を植樹

宇宙を旅した桜の種から育った「宇宙桜」の苗木が福良小学校に植えられ、2月18日に植樹式がありました。

苗木は、高知県仁淀川町の樹齢500年とされる「ひょうたん桜」の種から育てたもので、平成20年に国際宇宙ステーションに持ち込まれた桜の種から芽吹きました。

宇宙の過酷な環境にも負けずに発芽した生命力の強さから、復興・希望のシンボルとされており、東日本大震災の被災地では、津波襲来時の避難場所となる高台に植樹されています。このたび、南海トラフ地震による津波被害が危惧される福良地区において、避難場所となる同小学校に植樹されることとなりました。

植樹式には同小学校の児童や関係者らが参加。関係者らが校庭で植樹したあと、同小6年の児童らがじょうろを使って水やりをしました。



01



02

01 校庭に植えられた「宇宙桜」に水をやる児童ら  
02 宇宙桜の前で記念撮影する児童・関係者ら



南三陸町産の銀サケを使った給食をおいしそうに食べる榎列小学校6年生の児童ら。

おいしく食べて復興支援

## 南三陸町産の銀サケを給食に

東日本大震災から8年を迎えた3月11日、大規模な被害を受けた宮城県南三陸町の復興支援として、市内の小・中学校と幼稚園で、南三陸町産の「銀サケ」を使った給食が提供されました。

榎列小学校6年のクラスでは、震災・学校支援チーム「EARTH」に所属する山崎温加教諭が、被災地の現状などを語り、「被災地の皆さんは、力を合わせて頑張っています。おいしく食べて復興を支援しましょう」と呼びかけ、児童らは「南三陸産サケのハーブのせ」に調理された銀サケを味わいました。

中田創大さんは「地震で大きな被害があったのに、おいしいサケを届けてくれてすごい」と話していました。

照強関  
(八木出身)



(写真) 照強後援会から提供

南あわじ市から56年ぶりの幕内力士が誕生

## おめでとう！がんばれ！照強関

大相撲で活躍している八木出身の照強関（本名：福岡翔輝、伊勢ヶ浜部屋）が3月10日初日の春場所で、前頭十四枚目として新入幕を果たしました。

照強関は、阪神淡路大震災が起きた平成7年1月17日に生まれ、三原中学校卒業後に同部屋に入門。四股名は、師匠の伊勢ヶ浜親方が「強くなって、周りを明るく照らす力士になれ」と願いを込めて名付けました。

新入幕の知らせを聞いた守本市長は、「四股名のとおり、子どもたちに勇気と感動を与える存在となってください」と、今後の活躍を期待しました。

ゆめらんフェスティバル

## 歌とダンスを楽しむ子どもたち

親子のふれあいを深めてもらうことを目的に「南あわじ市子育て力向上推進協議会」が企画した「ゆめらんフェスティバル」が3月3日、文化体育館で開催されました。

ステージイベントでは歌のお姉さんとして関西を中心に活躍中のクッキーズによる歌のコンサートやミュージカル「うそつきのひつじかい」が上演され、一緒に歌ったり、手遊びをしたりと親子で楽しく観劇しました。

ステージイベント終了後は手作り体験コーナーやふわふわ滑り台、飲食店などのブースで楽しい時間を過ごしました。



クッキーズの歌とダンスでふれあいを深める来場者



クッキーズ



活発な意見交換が行われた農業女子フェス会

南あわじ市農業女子フェスを開催

## 女性農業者が交流を深める

市内女性農業者が集う「南あわじ市農業女子フェス会」が2月19日、吉備国際大学南あわじ志知キャンパスで開催され、約30人が参加。各グループの活動報告や、農作業での目標や悩みなどを情報交換しました。

フェス会では、淡路市在住の兵庫県女性農業者・阪口羽津美さんが「笑顔が絶えないグループ活動 ゆとりとやりがいのあるグループ活動」について講演されたほか、7つの市内農業女子グループの代表者らが多種多様な野菜の栽培やトラクター研修などの技術の習得などについて発表されました。

また、参加者が5グループに分かれ、「今後の目標、挑戦したいこと」をテーマに意見交換。「農業女子の横のつながりを強化」「販路の拡大」「楽しい農業」「働き手の確保」など活発な意見が出されていました。